

幼稚園等における0～2歳児の受入れ

子育ての支援や家庭等との連携強化に関する調査研究
「幼稚園等における0～2歳児を受け入れて行うふさわしい活動と
その展開の在り方に関する研究」



このパンフレットは、文部科学省の令和6年度幼児教育の学び強化事業の委託費による委託業務として、〈一般社団法人保育教諭養成課程研究会〉が実施した調査研究の成果を取りまとめたものです。したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。



01

はじめに ～研究の背景・目的・方法～

背景

幼稚園等における子育ての支援では、平成19年3月31日付の通知（18文科初第1275号）「幼稚園を活用した子育て支援としての2歳児の受入れに係る留意点について」（文部科学省初等中等教育局長通知）の発出に加え、平成30年には0歳児からの一時預かり事業（幼稚園型Ⅱ）が創設される等、制度面での整備が進められ、0～2歳児の受入れが広がりを見せています。しかし、実際の実施形態や保育内容は地域の実態に応じて展開するため非常に多様です。そのため、保育実践に関する情報共有が十分ではないのが現状です。

目的

満3歳以上の子供を対象とした幼児教育を行っていた幼稚園等で、その特性を活かした保育内容の工夫や子育ての支援がどのように行われているのか、0～2歳児の受入れの実態について調査し、今後さらに広がると予測される0～2歳児の受入れ及び子育ての支援の手掛かりとなる資料を作成します。

方法

文部科学省令和5年度幼児教育実態調査において、満3歳未満児を預かる保育活動を実施していると回答した幼稚園・幼稚園型認定こども園・幼保連携型認定こども園（以下、実施園）5,662園を対象にアンケート調査（園長対象調査及び担当保育者対象調査）を実施しました。また、実施園の公私立別、地域別の数の比率に基づき、全国の公私立園37園に訪問によるインタビュー調査を行い、また資料収集にもご協力いただきました。



02

定期的な受入れの実態

アンケート調査の結果より、0～2歳児の受入れが全体的にどのような傾向にあるのかを整理しました。その上で、インタビュー調査の結果を基に、職員の配置などの人的環境、遊具やおもちゃなどの物的環境、さらに子供に応じた遊びや生活と指導計画等の作成の観点から、実際に園で行われている取組の例や、園長や担当保育者の方々の声を紹介します。

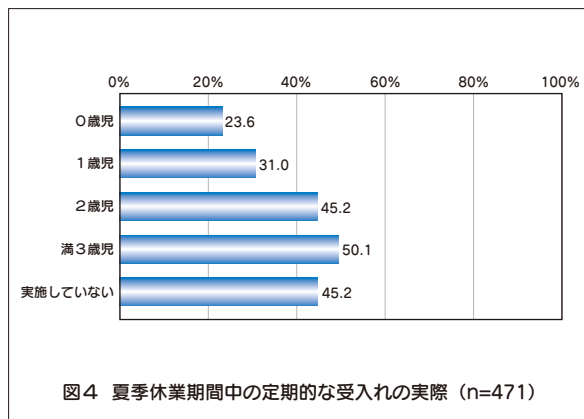
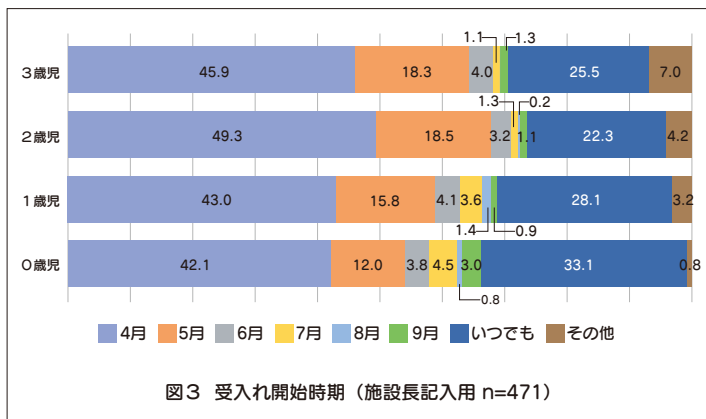
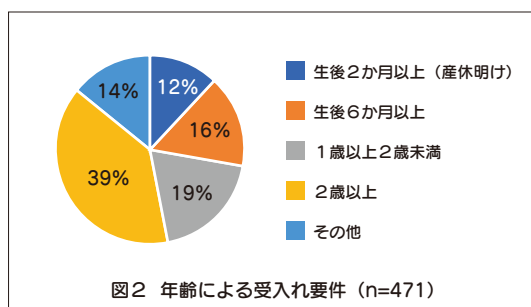
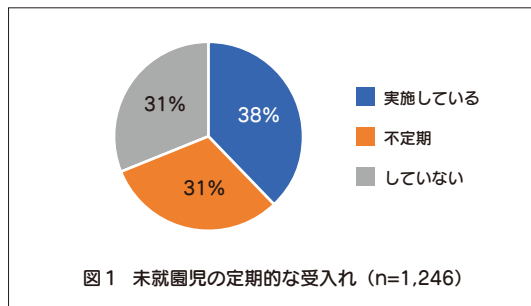
(1) 受入れ状況

未就園児（就園していない0～2歳児：満3歳未満児も満3歳以上児も含む）の定期的な受入れを実施しているのは約4割、不定期での実施を含めると調査対象園の約7割に上ります（図1参照）。

またその年齢による受入れ要件は、2歳以上が約4割と最も多くなっていますが、0歳代や1歳代から受け入れている園も約半数に上ります（図2参照）。

受入れの開始時期は、いずれの年齢においても4月開始が4割を超えていましたが、いつでもという園が約2割から3割見られます（図3参照）。夏季休業期間中は定期的に受入れを実施している園は少なく、年齢が低いほど実施している園の割合も低くなっています（図4参照）。夏季休業期間中は、定期的に受け入れている子供の数も少ないことが分かりました。

登園の方法は保護者による送迎が82.6%で、園バス利用については子供のみが8.9%、保護者同伴が0.4%でした。

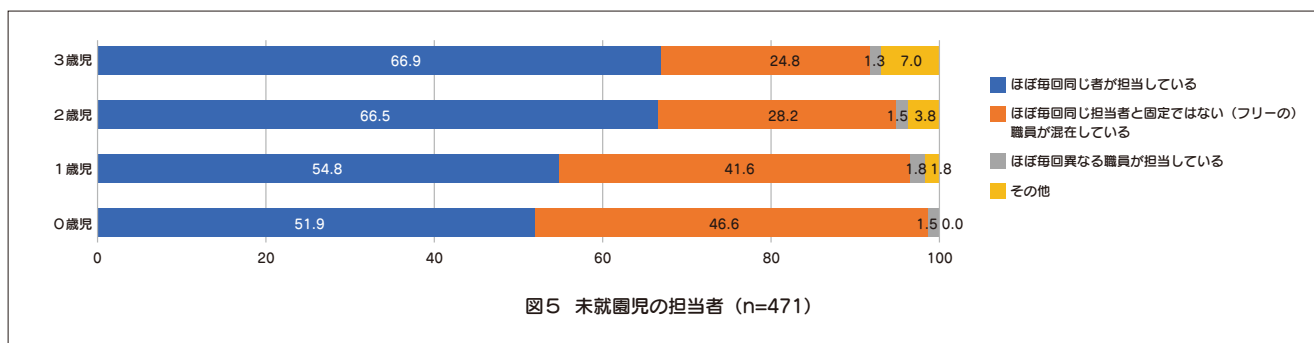


親子を無理に分離するのではなく、親子登園も柔軟に取り入れて、子供の発達を伝えたり、発達に応じる子育てのモデルを示したりしています。

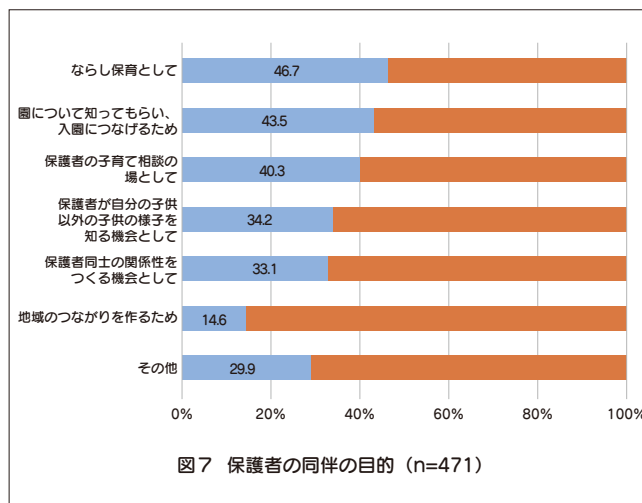
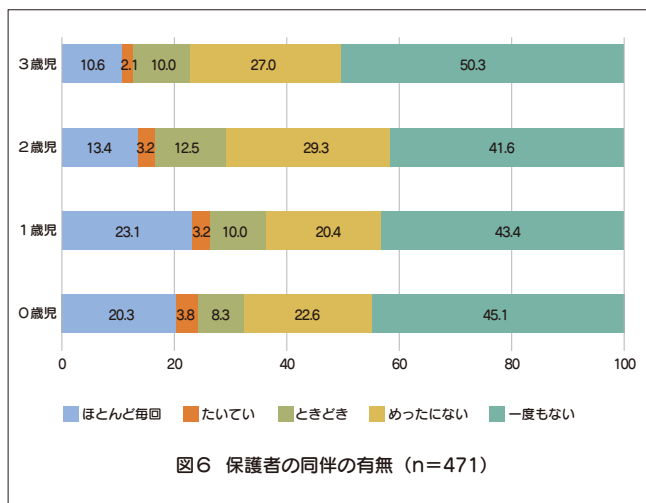
- 生後6ヶ月から利用可能ですが、ほとんどが在園児の弟妹の利用です。
- 0歳児は親子分離が難しいため、親子で参加の場合には0歳から受け入れています。
- 1歳6ヶ月健診を終えた頃から、子供の育ちや園に対する保護者の関心が高まるようです。
- 1歳児の自由遊びは2歳児と合同で行いますが、基本的な生活習慣に関することは発達差や時間の流れを考慮し、担当を決めて個別に対応し、保育者と信頼関係が築けるようにしています。
- 動きのやさしい遊びを用意したり、年齢によって異なる素材の滑り台を用意し、足で感じる柔らかさ等を変えたりしています。
- 1・2歳混合クラスで受入れを実施していますが、1歳児の割合が増えてきました。1歳児の姿を入れ込んだ計画の必要があると考えています。

(2) 人的環境

未就園児の定期的な受入れを担当する保育者は、半数以上の施設で固定しており、年齢が低いほど毎回同じ担当者と固定ではない職員が混在している割合が高まることが分かりました（図5参照）。正規雇用の担当者は半数程度で、そのうち9割が幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方を有していました。



受け入れているときに保護者が同じスペースにいる同伴については、約半数が「一度もない」（0歳児 45.1%、1歳児 43.4%、2歳児 41.6%、3歳児 50.3%）と答えしており、「ほとんど毎回居る」（0歳児 20.3%、1歳児 23.1%、2歳児 13.4%、3歳児 10.6%）との回答は1歳児で最も高く、以降は減少していることが分かりました（図6参照）。なお、同伴の目的は、「ならし保育として」（46.7%）が一番多く、「園について知ってもらい、入園につなげるため」（43.5%）、「保護者の子育て相談の場として」（40.3%）等が続きます（図7参照）。



受入れの実際

インタビュー調査の結果から

安心と信頼関係を育む保育者 — 保育者の専門性と体制の整備 —

経験豊富で丁寧な保育を大切にする保育者の配置で、子供との信頼関係をしっかりと築くようにしています。

- 自園の元教職員を雇用することにより保育のイメージを共有しやすく、3歳から5歳までの成長を熟知した上で、0～2歳児の子供にとって必要な経験が何か考えられる人材を確保しています。
- 子供が安心できるように、0～2歳児の受入れを担当する保育者数名を決めて、そのなかで相互に役割分担できるようにしています。
- 年度途中で利用する人数が増えていくため、それに応じて丁寧な保育ができる人材を配置しています。
- 保育者の関わりや環境の構成を通じて子供が安心し、保育者との信頼関係を基盤として自己発揮できることを支えています。
- とてもおとなしくて、ほとんど声を聞くことが出来ず、なかなか笑顔も見られないAちゃんがありました。家では、先生のことをとても好きだと言っていることは聞いていました。だんだん慣れてきたある時、「先生は私のこと大好きなんだよ」とAちゃんが話したことを保護者から聞きました。家庭とのコミュニケーションにより、私たち保育者がAちゃんを大事にしていることがAちゃんに伝わっていることを実感できました。

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

通い始めにおける配慮 — 子供の姿に応じた柔軟な対応 —

新たな環境で保護者と離れて過ごす生活に、子供が無理なく慣れていけるように、特に通い始めは柔軟に対応しています。

- 最初は親子で登園する、親子で過ごす時間や期間を設ける、子供だけで過ごす時間を少しずつ延長していくなど、子供が無理なく慣れていけるようにしています。
- ガーゼや人形などその子供の安心できるものを持ってきたり、カバンを持ったまま過ごしたりできるようにしています。
- 担当保育者以外の職員もサポートに入り、できるだけ子供が少人数で過ごせる時間を作って安心できるようにしています。

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

2歳児から3歳児へ — 滑らかな移行 —

未就園児対象の2歳児クラスから、入園後の3歳児クラスへの移行の時期が近づいたら、子供が自分の目で見て、直接体験することで、見通しをもって楽しみにできるような機会を設けています。

- 3歳児クラスへの入園が近づいたら、園内の散歩から始めて、他の部屋の様子を見に行ったり、3歳以上の子供の活動に参加したりすることもあります。
- 4月からの所属クラスを1か月前には決めていきます。そのクラスの活動を、最初は2歳児の受入れクラス担当保育者と一緒に、徐々に子供だけで体験します。3歳児クラスでの集団生活についていけるように準備するという視点ではなく、子供にとって滑らかな移行が可能になるように配慮しています。
- 3歳児が作った線路を借りてきて電車を走らせる、5歳児が拾ってきたドングリを見せながら「ドングリころころ」の手遊びをするなど、3歳以上児の遊びで使った教材や製作物を活かすこともあります。発達の連続性を踏まえて0～2歳児の受入れと3歳以上児の保育のつながりを大切にしています。



ドーナツ屋さんでお買い物



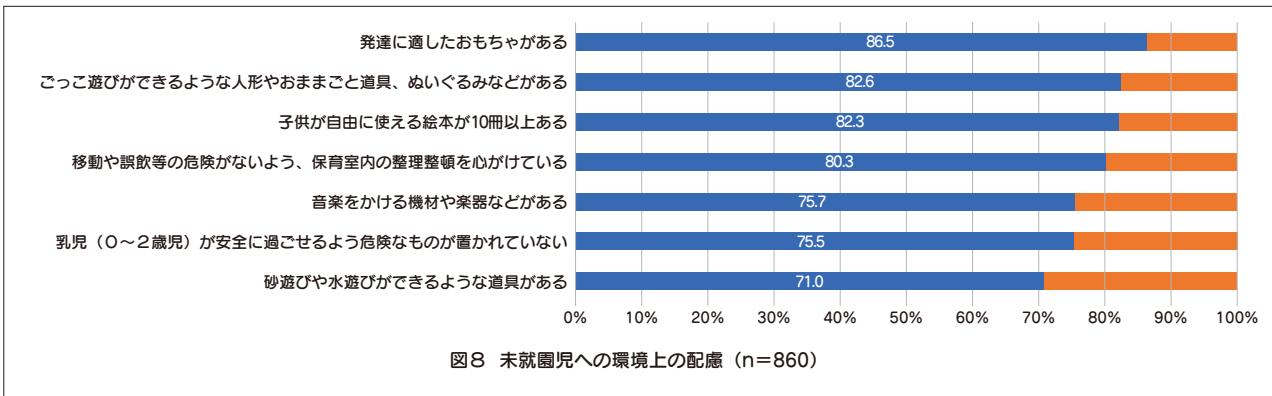
年上の子供の遊びの様子をじっくり見る

(3) 物的環境等

① 屋内環境

定期・不定期を問わず、調査対象の園（n=860）の54.0%に未就園児受入れ専用の保育室がありました。専用の保育室がある施設のうち、1室の施設が81.7%、2室が13.4%、3室が3.9%でした。

未就園児を受け入れるにあたり環境について配慮していることとして、7割以上の園が挙げた項目は、多い順に「発達に適したおもちゃがある」（86.5%）、「ごっこ遊びができるような人形やおままごと道具、ぬいぐるみなどがある」（82.6%）、「子供が自由に使える絵本が10冊以上ある」（82.3%）、「移動や誤飲等の危険がないよう、保育室内の整理整頓を心がけている」（80.3%）、「音楽をかける機材や楽器などがある」（75.7%）、「乳児（0～2歳児）が安全に過ごせるよう危険なものが置かれていない」（75.5%）、「砂遊びや水遊びができるような道具がある」（71.0%）等でした（図8参照）。



受入れの実際 インタビュー調査の結果から

0～2歳児受入れのための物的環境 —子供の発達に合わせた工夫—

0～2歳児受入れにあたり、子供の発達と園の環境に応じて、新たに準備したり整えたりしています。

- 0～2歳児に合わせた高さのイスとテーブル、子供が自分で出し入れしやすい大きさや高さのロッカー
- すぐに脱ぎ履きできるように、保育者が子供全員の靴を一度に持ち運びできる靴箱
- おむつ交換スペースや子供が自分で脱ぎ着できるスペース
- 室内の手洗い場
- 天井から布をぶらさげる等、落ち着ける空間作り
- マットや棚でコーナーを分ける等、集中して遊べる環境
- 手作りおもちゃや子供がじっくり関わることができる素材・教材（種類や量を考慮して）
- 3歳児の子供と区別しやすい帽子



さまざまな遊びのコーナー

受入れの実際 インタビュー調査の結果から

安心して遊べる環境 —「もっと遊びたい」「また行きたい」—

子供が安心して、期待をもって園に通えるように、同じ部屋で、同じ先生と、同じおもちゃで遊べる安定した環境を用意しています。

- 週1回の登園であるため、子供が「ここに来たらこれがある」と安心して遊べるように、基本的には物の配置やおもちゃなどの環境を変えないようにしています。子供にとって「自分がここで遊んだら落ち着く」というコーナーの配置などは変えず、子供の興味に応じてそこに置くものを変えています。
- 自分で選んだ遊びに集中できるように、十分な時間を取っています。最初は「帰りたい」という気持ちが強かった子供も、「もっと遊びたい」と言うようになってきました。園が楽しい場所になって子供の成長を感じます。



どこに何があるか分かりやすいおもちゃの棚

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

さまざまな遊びのコーナー —好きな遊びを選ぶ—

子供がやりたいと思った遊びを、自分で選んで存分にできるように、いくつかのコーナーを設けています。また、子供の様子に応じて、短時間で取り組めたり、達成感が得られたりするように、保育者同士で話し合いながら調整をしています。

- 手先を使う遊び：
洗濯ばさみ、トング、ボタン、チャック
- 造形・製作遊び：小麦粉粘土、お絵かき、
新聞紙、色紙、紙コップ、積み木
- 全身を動かす遊び：
巧技台、トランポリン、マットなど
- 子供のやりとりが生まれる遊び：
ままごと、人形、衣装
- 言葉や形のおもしろさを楽しむ遊び：
絵本、パズル



さまざまなごっこ遊びができるコーナー



手先を使って遊ぶボタンのおもちゃ



手先を様々に使う壁面の工夫



全身を動かして遊ぶ乗り物



ドングリ転がし



でこぼこブロック



身近な素材を生かしたおもちゃ

② 屋外環境

園庭については、子供だけで使用可能としている園が約半数ありました。植木鉢やプランター、花壇、草花等は使用可能な環境として多くの園が挙げています。また、可動式の遊具（乗り物類）やプレイハウス、ベンチ、築山等がある園の約半数では、子供だけで使用可能としていました。固定遊具等については、保育者の援助の有無による使用の可否を尋ねたところ、使用可能の割合が高い順に「滑り台（70.0%（援助あり）／37.3%（子供だけ）以下同順）」、「鉄棒（60.6%／27.1%）」、「ブランコ（44.5%／21.7%）」、そのほか「砂場・どろんこ場（65.2%／55.1%）」、「水遊び場（46.5%／14.1%）」でした。滑り台や鉄棒が設置されている園では、保育者の援助のもとで子供が使用することが認められ、砂場・どろんこ場は子供だけでの使用を認めている割合が高いことが分かりました。

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

自然物との関わり — 様々な感覚を通して季節を感じる —

様々な感覚を通して季節の変化を肌で感じながら、自然と関わる体験を大切にしています。

- 四季を感じられる園庭で、落ち葉を集めてザクザク踏んだり、においをかいだり、子供がのびのび遊べることを意識しています。
- 植物や虫・小動物と出会い、その美しさ、不思議さ、おもしろさを味わい、心も身体もたくさん動かせるようにしています。
- 自然豊かな環境を生かし、ドングリ拾い、葉っぱ集め、虫探しなど、自然物に触れる経験がたくさんできるようにしています。興味をもったり観察したりする機会が多く、子供の学びにつながっています。



トンボが止まった！



見える？



こんなに大きいサツマイモ

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

身体づくりにつながり挑戦できる園庭 — 興味・関心から多様に身体を動かす喜び —

自ら意欲的に身体を動かして多様な動きを経験し、挑戦できることを大切にしています。

- 園内にいろいろな起伏を設定し、子供が身体全体を存分に使って活動できるようにしています。
- 豊かな自然環境の中で不安定なところを動き回ることによって、自然に体幹が鍛えられるようにしています。興味・関心に基づいて動き、多様に身体を動かす喜びを得ることが大切です。
- 以前は、子供にケガをさせないよという意識が強かったのですが、子供の育ちや経験から学ぶ力を信頼して、細心の注意を払いつつ、ケガから学ぶことも大切という危機意識へと変わってきました。
- 特に乳児向けの園庭を設けていませんが、1・2歳児には、3歳以上児を見ながらやりたい気持ちや向上心を持ち、挑戦する姿が見られます。また、3歳以上児も1・2歳児を支えようとする姿が見られ、互恵的な学びにつながっています。



森の中でこのぼりを作って走ることを楽しむ



一緒に走ろう



異年齢で総合遊具を使って遊ぶ

(4) 子供の姿に応じた遊びや生活と指導計画等

未就園児の受入れに際しては、必ずしも指導計画等を作成する必要はありませんが、様々な目的から指導計画等を作成して取り組む園が見られました。

- 0～2歳児の受入れを園の全体的な計画に位置付けた上で、対象となる子供の具体的な活動内容やスケジュールに即して年間計画や週・日の案を作成しています。同年齢の在園児の年間計画や週・日の案に準じることもあります。いずれの場合も、これらの計画はあくまで一つの目安として、実際にはその時々の子供の様子を見ながら柔軟に対応しています。
- 子供によって発達差・個人差が大きい場合や、利用頻度が違う場合など、実施状況によってあらかじめ計画を作成することが難しいこともあります。日誌等の記録をもとに、個別に見通しを立てて対応しています。
- 計画の作成に当たっては、3歳児クラスへの準備としてではなく、それぞれの時期の発達に即して、子供がしたいことを存分に楽しみ、園で過ごす時間が子供にとって充実したものとなることを大切にしています。期・日ごとの振り返りを通じた子供の理解に基づいて、活動のねらいや内容、環境の構成を考えています。
- 園庭での遊びなど、在園児のスケジュールとの調整が必要なこともあるため、職員間での各クラスの計画を共有するようにしています。
- 一日の流れに食事の提供や午睡が含まれる場合には、特に、食物アレルギーに関する情報や睡眠時の状態の確認など、安全・健康管理に関する事項の確認を確実にを行うため、計画やチェックリスト等を用意し、活用しています。

計 画 の 例

◆ 年間計画

目標			
期	I期 (4・5・6・7月)	II期 (9・10・11・12月)	III期 (1・2・3月)
予想される子供の姿			
ねらい			
内容			
環境の構成・援助			
健康・安全			
家庭との連携			
行事予定			

期の区切り方は、3歳以上児クラスよりも幅をもたせることが多いようです。

ねらい及び内容の欄には、遊び・生活・人との関わりなどについて、子供に経験してほしいことやそのための活動の内容を記入しています。

◆ 月間計画

子供の実態	
予想される子供の活動	
ねらい	
内容	
環境の構成・援助	
行事予定	
振り返り (反省・評価)	

◆週日案

2020年度〇月第〇週 2歳児 Aクラス						
今週の目標	〇月〇日(月)	〇月〇日(火)	〇月〇日(水)	〇月〇日(木)	〇月〇日(金)	〇月〇日(土)
一日の流れ						
ねらい						
内容						
環境の構成						
配慮事項						
欠席者						
子供の様子(全体・個別)						

週・日の計画は、記録や反省・評価と一体的に作成している例もあります。

受入れの実際
インタビュー調査の結果から

感触遊び — 家庭では取り組みにくい経験を友達と存分に —

汚れることを気にせず、様々な感覚を使って思う存分遊ぶことで、子供の感性が育ちます。

- 砂場で泥んこになって遊んだり、絵の具で自由に描いたり、水や氷、寒天などの感触を楽しんだり、家庭では取り組みにくい遊びを友達と思う存分できるよう環境を用意しています。水が流れたり、色が混ざったりする様子をじっと見つめたり、繰り返し関わったりすることを通して、自然物や素材、教材の特徴を身体で感じ、楽しんでいるようです。



砂や水を入れて混ぜて詰めて料理中



砂場で水を流してじっと見つめる



絵の具と筆で自由に描く



こんなになっちゃった!

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

遊びのための十分な時間の確保 —「もうっかい！」—

子供がじっくりと遊びに取り組むための十分な時間を確保すると共に、子供の姿に応じた生活の流れを大切にしています。

- 興味・関心をもったこと、おもしろいと思ったことを何度でも繰り返し取り組めるようにしています。
- 子供の様子に応じて、外遊びの時間を延長する、昨日の遊びが続けられるようにするなど、柔軟に計画を変更しています。



集中して繰り返し遊ぶ



光を当てたらどうなるかな

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

初めての経験から得られる達成感 —「できた！」—

0～2歳の子供にとって、園での経験は初めてのことが数多くあります。子供がやってみたいと思い、意欲的に取り組めるような環境を整えることが重要です。

- 子供が「おもしろそう」「やってみたい」と思えるような遊びを用意し、楽しみながら様々なことに挑戦できる環境を工夫しています。
- 子供が初めて取り組んだことに「できた！」という達成感と喜びを得ている場面に立ち会うことが多くあります。そうした場面では、保育者も子供の思いを受け止め、喜びを共有するようにしています。

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

身の回りを整えること —自分でやりたい気持ちを大切に—

自分でやりたい気持ちを尊重し、子供が扱える道具を用意するなど、意欲的に身の回りを整えることができるような環境を用意しています。

- ほうきの履き方、落ち葉の拾い方、野菜づくり等、仕事の所作や美しさを保育者がモデルとして見せる中で、実際にやってみる生活体験を大切にしています。
- 自分でやりたい気持ちを尊重し、手に取ってできるように、生活道具について、大きさや重さなど子供が使いやすいもの（少量1回分のみ注げるお茶、小さな布巾・雑巾・スポンジ、柔らかいもののみ切れる安全な小さいナイフ等）を用意しています。
- 日々の生活を同じ流れで無理なく繰り返すことを通して、身の回りのことを意欲的にできるように援助しています。
- できることは子供が自分で行えるように、手伝わずに見守ることや待つことの重要性について保護者に伝えるとともに、子供への言葉かけや関わり方のモデルを示しています。子供の小さな成長を喜び合い、気軽に話しやすい雰囲気作りを心がけ、保護者と共に子供を育てていく姿勢を大切にしています。
- 困っていることが言えるように絵カードを導入しています。また、困ったときは見て確かめることができ、見通しをもって今何をやればよいのか、目で見て分かる環境を整えています。

受入れの実際

インタビュー調査の結果から

子供同士のやりとりを生み出す遊びや保育者の関わり **—友達と一緒に—**

遊びや生活を通して、友達への関心や、友達と一緒に遊びたい気持ちが育まれるような関わりや援助を行っています。

- 当初は全く関わりがなかった子供も、次第に遊びの中で友達の名前を呼ぶようになってきました。「Aちゃんが砂場でケーキを作っているよ」と、友達に目を向けられるように丁寧に言葉をかけていたことが今につながっているようです。
- 鬼ごっこのように、やりとりを通して子供同士お互いの意図や思いが伝わり笑い合えるような、心が揺れ動いて楽しい遊びを意識して行っています。
- 他の子供が泣いているときに保育者が関わる姿を子供は見ていて、自分もやってみようとするようになってきました。友達に何かしてあげたいという気持ちを持ち、真似ではなく自分なりに考えて関わるようになってきています。



一緒に入ろう



みんなで作ろう



ケーキを切るね

(5) 子育ての支援と保護者への発信

① 実施内容

未就園児の受入れにつながる子育ての支援の内容については、「園庭開放」(78.1%)が最も多く、「個別相談」(56.6%)、「行事への参加」(54.3%)、「在園児との交流」(50.3%)等の順で多いという結果になりました(図9参照)。

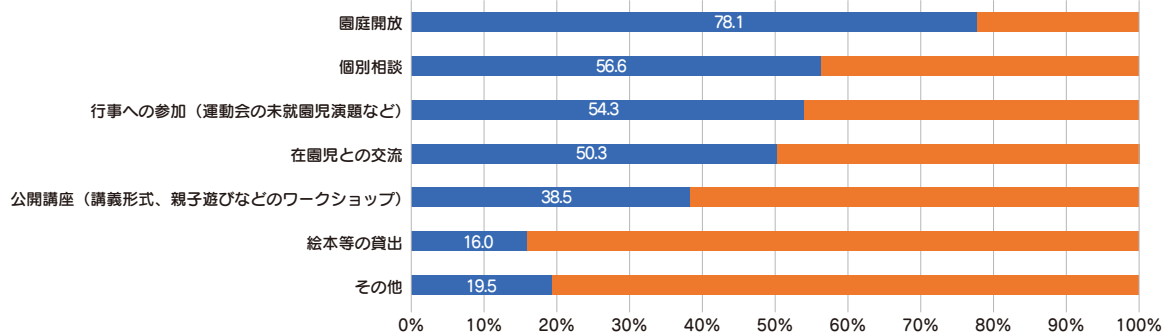



図9 未就園児の受入れにつながる子育て支援の内容 (n=860)

♥ 募集のお知らせ・要項

(2025年度) **2歳児組募集のお知らせ**

目をキラキラ輝かせているなものを「見たい・触りたい」と思っている、そんな興味心が広がる2歳のお子さんに様々な経験をさせてあげたいですね。幼稚園では、豊かな環境の中で入園前のお子さんが安心して楽しく過ごせるように、入園前の2歳児クラスを実施しています。興味の世界を広げて自信をつけていく時期のお子さんの自己肯定感が育つように、愛情いっぱい支えます。また、保護者の皆様の子育てが楽しく充実したものになりますように共に喜び共に考えながらサポートしていきたいと思えます。保護者の皆様も子育てで友達を作って子育ての面白さや大変さを共有しませんか？子育て経験豊富なベテランスタッフが皆様の子育てを応援します。



(活動内容)

- ・コーナーあそび (おもちゃごとの・電車・絵本・パズル・ブロック)
- ・外遊び (積木遊び・砂遊び・水遊び)
- ・制作活動 (おもちゃづくり・お絵かき・粘土遊び・素材遊び)
- ・運動遊び・リズムあそび
- ・季節のイベント などなど

2025年度 2歳児組 募集要項

(2022年4月2日生まれ～2023年4月1日生まれ)

※国の「こども通園制度」のモデル事業として実施しますので、満3歳児になるまでは、補助を受けることができます。その場合、減額された保育料となりますが、満3歳になった次からは、補助なしの通常の保育料となります。

クラス (曜日)	時間	参加内容	費用
A: (火曜日クラス) (10名)	5月～12月 9:30～11:30	【5月】親子で参加 【6月～3月】子どものみ (ただし状況に応じて保護者のお付き添いをお願いする場合があります)	3歳のお誕生日までは以下の額 入会金 5,000円 1・2学期 3,400円/月 3学期 4,600円/月 保険料 年間600円
B: (木曜日クラス) (10名)	1月～3月 9:30～12:30	※2学期から15名に増員します ※3学期からは保育時間が3時間になります。お弁当をご持参ください。	3歳になった翌月から以下の料金に変更 1・2学期 入会金 5,000円 保育料 6,000円/月
C: (金曜日クラス) (10名)			3学期 保育料 8,000円/月

※集団生活に補助が必要なお子様の場合、保護者のお付き添いをお願いする場合がありますのでご了承ください。

※2026年度の幼稚園1号認定の入園を優先します。(預かり保育レギュラークラスの優先はありません)

※この「こども通園制度モデル事業」の実施内容が未定の部分もありますので、状況に応じて保育時間や費用を若干変更させていただくことがありますのでご了承ください。

具体的な活動内容や申込みに必要な情報を整理して、まだ園のことをよく知らない保護者にも分かりやすく伝えるようにしています。

♥ 保護者へのおたより

幼稚園では、身の回りのことを少しずつ自分でできるようになり、新しい時は声を出しながら一緒にしたりするようにしています。ご家庭でも、お子様と一緒に試してみてください。

衣服や靴の着脱

プレ幼稚園では、決まった順序で着脱をしたら、靴や靴下の履き履きも自分でしたり出来るように取り組んでいます。最初は、保護者の方が手を貸す部分が多くなりますが、少しでもお子様が自分でやろうとした時には、しっかりと自分で出来た喜びを後々支えるようにしてあげてください。少しずつ、保護者の方が手を添える部分を減らしていくことで自立へと繋がっていきます。

着脱のポイント

【靴・靴下の履き履き】

- ・靴を履くときは、かかとを上げつま先の方向へ、しっかりと足を入れよう！
- ・かかとを踏んでいないかな？
- ・マジックテープは、しっかりと引っ張って閉じよう！
- ・靴下は、両手で持って踵部分のコムを引っ張って、つま先を入れよう！(足の指を引っ張る部分で踵部分になります)

【上の靴】

- ・履くときは、踵は前から履くようにしよう！
- ・着るときは、踵を正確に入れよう！(踵は踵のトンネルへは、おてのトンネルへ)
- 【下の靴、パンツ・おむつ】
- ・前だけでではなく、お尻の方を引っ掛けてみよう！
- ・座では「ズボン、ズボン、ズボン、ズボン」と声を掛けています。

トイレトレーニング

おむつを履いている子どもは「どこから？どうやって？おしっこが出てくるのか」をまだ分かっていない子どもです。「トイレに行って、おしっこしてごらん」と言われても、どうすればいいかわからず困っている子どもも多いかもしれません。また、子どもはおしっこが溜まらないうちに排泄できず、「おしっこを出したい」と思っても我慢ができません。ですから、トイレに行ったタイミングと排泄のタイミングが合致せず、失敗をすることも多くあるかもしれません。子どもが排泄に対して、どう感じているのかと一緒に考える必要があります。

おむつでおしっこ・ウンチをしている最中にトイレに連れて行ってきてください。便意に勝たなくても、おしっこ・ウンチをトイレと関連付けられるきっかけになります。

- ・トイレが楽しい場所になるように、お子様の好きなおもちゃやキャラクターを掲示してみてください。
- ・パンツで失敗しても、「替えのパンツ(おむつ)が汚るから大丈夫だよ」と伝え、責めさせてあげてください。
- ・パンツをする時、失敗をすることもありませんがお子様が練習をしているタイミングがわかります。タイミングが合っていると、その瞬間にトイレに連れて行ってみてください。

みんながトイレに行く練習をしています。ご家庭とは違ったトイレに戸惑うかもしれません。少しずつ慣れていくように声を掛けていたりしていただいています。幼稚園の園に保護者の内と一緒に頑張ってほしいですね。楽しんで練習できるようにしていきたいです。



トイレの絵本もありです。

「だんご だんご」

だんご だんご だんご だんご
だんご だんご だんご だんご
あーあ だんご だんご だんご
だんご だんご だんご だんご
だんご だんご だんご だんご

くっつくところをばっば、お尻が、おしっこ等。覚えても楽しいですよ。親子でお子様の身体にだんごをくっつける練習もできますよ。

家庭での参考となるよう、基本的な生活習慣について、園で工夫していることを写真とともに具体的に伝えたり、子供と一緒に楽しめる絵本や歌を紹介したりしています。

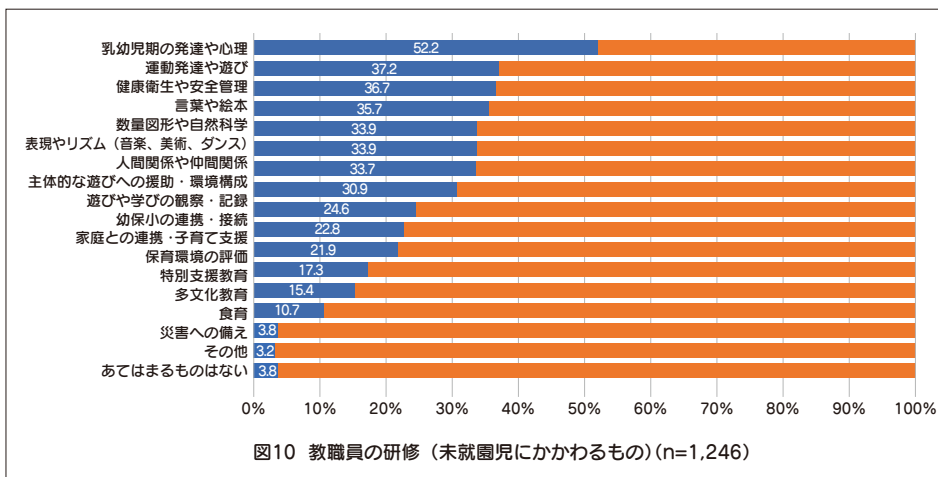


03 おわりに

受入れにあたり、対象としている子供の年齢にかかわらず担当保育者が配慮している主な事項は「安全・衛生」に関する内容でした。次に配慮している事項としては「子供に対する応答性」が挙げられます。

0歳児・1歳児では選択率の低かった「子供が自ら危ないことに気づき、自分で考えながら安全に遊べるように、援助したり環境を整えたりしている」が2歳児や満3歳児では多く選択されていました。満3歳児担当の保育者の配慮している事項にのみ「子供が探したり見つけたりすることを楽しんだり、それをきっかけにして遊びが広がったりするように環境構成を工夫したり、子供が発見したことや物を取り上げて周囲に伝えたりする等して、子供の好奇心を支えている」という項目も含まれていました。

この1年間に実施した未就園児の保育にかかわる研修について調査したところ、研修内容の上位五つは「乳幼児の発達や心理」(52.2%)、「健康衛生や安全管理」(37.2%)、「運動発達や遊び」(36.7%)、「家庭との連携・子育て支援」(35.7%)、「主体的な遊びへの援助・環境構成」(33.9%)でした(図10参照)。これらはいずれもが未就園児の受入れにあたり担当保育者が配慮している主な事項につながるものであると考えられます。



受入れの実際

インタビュー調査の結果から

0～2歳児受入れの重要性 — 遊びを通して子供の発達を支える —

- 2歳くらいの時期に見られる苦手さが、例えば4・5歳児のときに遊びを広げることが難しかったり、自信が無かったりする姿として顕著に現れてくるため、0～2歳児における多様な経験が大切だと思います。
- 0～2歳児の受入れを行っているとき、子供の発達の土台作りをしている実感があります。3歳以上児の保育者とも情報を共有することで、子供の姿に応じて柔軟に対応することや、子供の主体的な遊びを尊重し、遊びを通して行う教育の重要性が園内で再認識されています。0～2歳児の受入れは、いろいろな意味で園全体の基礎作りになっています。

まとめ

幼稚園等における0～2歳児の受入れでは、どろんこ遊びや自然との関わり等、家庭では取り組みにくい遊びが大切にされています。また、一人一人の子供の今の気持ちを丁寧に受け止めることで、保育者や園環境に安心感を抱くことを基盤として、徐々に友達への関心につなげる実践が展開されていました。保護者と共に過ごす園庭開放や親子登園から、保護者と離れて過ごす時間を少しずつ延ばしていく、家庭でなじんだ玩具を多く取り入れた環境から、園ならではの遊び環境へと環境構成を変化させていく等、家庭生活から園生活の移行を丁寧に進めていく工夫もなされています。幼稚園等の持ち味を生かし、保護者と協力しながら子供の成長を共に喜び、保護者が子育ての楽しさを味わえるような子育ての支援の展開が各地でなされています。様々な地域の実情に応じた今後の展開のヒントとなれば幸いです。

